

神戸大が昨年9月から受験生向けのラジオ番組の制作・放送を始めた。懐かしの機器という印象のラジオだが、インターネットラジオの普及で、全国発信も容易で、若いリスナーも増加中。学校案内のパンフレットなどでは伝えにくい、「生の学生の声」を届けられるという特徴もあり、同大学は「大学の活動を知ってもらい、高校生らの入学につなげたい」と意気込んでいる。（加藤あかね）

2月上旬、神戸市灘区と同大学キャンパスの会議室に機材を持ち込み、臨時の「スタジオ」が設置されていた。インターネットラジオ局「RadioCro（レディクロ）」（神戸市）で毎週金曜日に配信する広報番組「神戸大学Radio！〜等神大（とつしんだい）の私たち〜」の収録の日だ。制作するのは放送委員会OBの4年大島敦紀さん（22）ら学生たち。この日は「前期試験直前編」として受験生にアドバイスを送る内容で、試験会場までのバスに乗る際の注意点について、学生たちが「むっちゃ並んでぎゅうぎゅう詰め。時間には余裕を持って」法学部なのに間違えて工学部前で降りた」などと体験を交えたエピソードを披露し

受験生耳寄り

ネットラジオ

た。ラジオ放送の狙いは全国的な知名度のアップだ。同大学は国立難関大の一つにもかかわらず、関東地方での知名度は今ひとつ。愛称「しんだい（神大）」も、「信州大」や「新潟大」などと混同されがちだ。そこで簡単に全国に放送できるインターネットラジオで、学生の声を直接届け、「神戸大をもっと身近に感じてもらう」と考えた。

放送する内容は学生に企画を任せ、「隣に神戸大生がいるような」親しみやすい番組を工夫する。例えば最近では「神大生の恋愛」「初めての一人暮らし」などが、受験生の関心が高そうだが、学校案内では取り上げにくい大学生活のプライベートな部分をテーマに、学生らに語ってもらった。

番組の「聴取率」は不明だが、大学ホームページで公開している過去に放送した番組には今年1月末までの5か月間で約7250件のアクセスがあった。多く

神大生制作 毎週金曜日に配信

入試や一人暮らし 生の声 知名度アップへ

は受験生や在学生の18〜24歳、親世代の45〜54歳だったという。同大学広報は「まだまだ

他の大学も活用
ラジオを広報に活用する大学は、他にもある。

手探りだが、声だからこそ伝わる情報もある。気軽に聴いて、興味を持つきっかけになれば」とする。大島さんは「僕が受験勉強をしていた時の唯一の楽しみがラジオだった。勉強の合間の息抜きとして、聞いてもらえたら」と話す。

高知大は2013年1月からFM高知で番組(25分)を放送。卒業生の同局アナウンサーが司会を務め、学生らがゲストで登場する。大学祭などのイベント情報、留学体験といった大学生活の紹介に加え、教授が研究テーマを解説するなど学術的な内容を取り上げることもある。担当者は「文章で説明するより、言葉で語りかけることで、より具体的なイメージを持ってもらえる」と話す。

金沢大は12年8月からエフエム石川に5分間の広報番組を持っている。神戸大と同様、学生が番組を制作しており、マイカーでの移動中などに聞いてもらう「ラジオ版大学紹介ガイドブック」と位置づける。広報室は「学生目線で新たな大学の魅力を紹介すると同時に、番組作りを通じて、学生が活躍する場にもなっている」という。



番組収録前に和やかな雰囲気です打ち合わせする大学生たち（神戸市灘区の神戸大で）

インターネットラジオ インターネットを通じて送信する音声配信で、スマートフォンやパソコンで受信できる。全国のラジオ番組を配信するサービス「RadioCro（ラジオクロ）」には民放AM、FM82局などが参加し、1か月あたりの利用者は約1000万人に上る。配信会社によると、リスナーは従来のラジオ放送と比べ10〜20歳代の割合が高く、改めてラジオを聴くようになった層も4割に上るといふ。